

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 12 月 2 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670800384
法人名	有限会社 精祥
事業所名	グループホーム やまぶき
所在地	鹿児島県出水市上鯖洲4-8-1 (電話) 0996-63-4176
自己評価作成日	令和5年9月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町1-6番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、熊本県との県境に位置する出水市の中心部にあり、オレンジ鉄道や九州新幹線も停車する出水駅もすぐ近くにあり施設のすぐ横には広瀬川が流れており、河川敷まで降りることが出来る。周辺には学校も多く点在しており、市役所や市立図書館もある。生活の場としての環境に大変恵まれている。
当施設は、地上3階建ての有料老人ホームことぶきの2階の一部に併設されている。1階にはコンビニエンスストアもあり入居者の買い物支援にも利用している。また、駐車場の一部に畑もあり、入居者と一緒に毎年さつまいもを植えており、散歩がてら1階に降り草取りも行っている。秋になるとさつまいもの収穫をし、おやつを作ったり、食材としても使っている。さつまいもの茎を取って来ると入居者が一生懸命皮をはいて下さききんぴらを作るのも恒例となっている。
コロナ感染も一時期程ではなくなったもののまだ感染対策を取っており、時間や回数を決め対面会を行い、外泊も可能となっている。施設の周りにはスウィーツの店も多く点在しており、レクリエーションの一環としてお客様の少ない時間に担当者と一緒に一日に一人もしくは二人の入居者と外食に出て施設内では見られない表情を見ることが出来ている。入居者家族に毎月送付している日頃の写真を載せた手紙は好評で、今は担当者からもコメントを載せたものにして続いている。少しずつ変化するADLに対し入居者が安全に安心な生活が出来るよう支援している。入居者と職員が笑顔で過ごせるグループホームを目指している。

当ホームは出水市の商店街と米ノ津川を挟んで接し、出水駅・出水市役所等が近くにある利便性に優れた環境に建てられている。母体法人が運営する介護付有料老人ホーム「ことぶき」の2階に位置しており、大きくわかりやすい建物となっている。
ホームの理念である「一緒にふれあい、笑顔のある家庭的な暮らし」と共に法人の理念と毎月の接遇目標をホールや事務室の入口に掲示し、職員は利用者の尊厳を大事にしながら、否定せずに寄り添う言葉かけを意識した支援に取り組んでいる。家族との面会や外出・外食・外泊・買い物・ドライブ・花見等でホームから外出することや、食べたい物リクエスト・誕生日のケーキなど利用者の要望等には可能な限り対応し、利用者の主体的意向に沿って柔軟な支援に努めている。
管理者は職員との信頼関係や協力体制を大切に、日頃から気軽に言い合える関係づくりの構築に取り組んでいる。職員は年度目標に対する「個人評価シート」を基に施設長と面談し、管理者は人前で注意しないことや意見等は対面で聞き取るように配慮して、相談や意見・提案等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。
利用者は発揮できる能力に応じて食事の準備等を手伝い、食事が楽しいものとなるように努めており、本人のペースで菜園の草取りや収穫等に参加して達成感を感じられるように支援している。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時にその日の出勤者とともに唱和し、ホールに貼り出している。	開設当初からのホームの理念と法人の理念と共に毎月掲げている接遇目標をホールや事務室の入口に掲示し、朝礼時に唱和している。職員は利用者の尊厳を大事にしながら、理念を意識して支援に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、コロナ禍以前は自治会の催し物にも参加させていただき、当施設の文化祭や夏祭りなどにも参加の呼びかけを行っている。	地域の自治会に加入しているが、清掃活動・総会・夏祭り等の行事への参加等は自粛している。近隣から野菜等の差し入れを頂いたり、散歩時には地域の方々と挨拶を交わすなど、地域との良好な関係を築けるように努めている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	コロナ感染も落ち着きが見えた頃から入居者と担当者で散歩に出掛けたり、近くの喫茶店などにお好きなものを食べに出掛けることが増えてきている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策のため郵送によるサービスの実際や現状報告を行っている。偶数月に報告行い意見書の提出を求め奇数月に返送された意見を身元引受人、自治会会長、民生委員、市職員へ持参している。	コロナ禍以降、運営推進会議は2か月毎に家族・自治会長・民生委員・市職員等に活動報告・学習会の内容・翌月の予定・ヒヤリハット報告書・意見・感想等を記入してもらい意見書を郵送し、得られた意見等を検討している。今後は職員や家族への周知にも努めていきたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない点など電話にて相談を行っている。また、介護保険各種の手続きの際には丁寧な指導をもらっている。	市の担当者とは電話や窓口での相談が多く、介護保険関係手続きや生活保護受給中の利用者に関する連携等にも快く対応してもらっている。行政やグループホーム協議会主催の研修会も行われるようになり、職員間での情報共有し、サービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設の職員と一緒に組織された身体拘束廃止委員会が存在し定期的に学習会のなかで身体拘束のないケアについて学習し取り組んでいる。	「身体拘束等の適正化に関する指針」を整備し、安全対策・拘束廃止委員会を毎月開催し、年間計画で勉強会を実施後に部署会議で情報を共有している。指針には身体拘束等適正化委員会の設置・目的等について明記されているが、適正化に対する検討ではなく報告のみとなっている。日中は玄関は施錠せず、帰宅願望のある利用者には職員が付き添って散歩に同行することで安定を図るように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設施設と合同で年間計画を作成し全員参加で学習し虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会の中で学習し理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決まると電話連絡にて相談に応じ、契約締結時は不安や疑問点など十分理解を得られるよう説明を行っている。入居後は安心していただけるよう現状報告をこまめに行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のなか当施設の中での開催はできていないが、毎月郵送する運営推進会議の報告と同時に意見書の提出を求めている。内容については翌月の議事録のなかで全員に報告している。	利用者の意見等はあまり聞かれないが、普段の会話や仕草等から把握に努め、家族の意見・要望等は電話や面会等で把握している。グループホーム便りや担当者から生活の様子等を家族に郵送しており、面会は予約制、事務室で対面15分以内と緩和され、利用者及び家族の安心・安堵感へと繋がっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議の報告と一緒に意見書の提出を求めている。更に担当職員からの意見の収集にも努めている。	管理者は日頃から職員と気軽に話せる雰囲気づくりに努め、人前で注意しないことや意見等は対面で聞き取るように配慮している。希望休や有給休暇の取得、勤務交替、資格取得のための受講料助成や資格手当の支給等にも可能な限り対応し、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	対象となりそうな職員には研修への参加を呼びかけている。夜勤や勤務体制にも偏りがないように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職が初めての職員に対して都度指導を行っている。外部研修への参加希望があれば可能な限り調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍において、まだしばらくは外部とのネットワークづくりは困難である。グループホーム連絡協議会メンバーであるため、その中のzoomによる勉強会には積極的に参加している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されたら他入居者との交流を意識的に行い、その中で本人の不安な気持ちには寄り添い、要望には出来る限り対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階から心配や不安に寄り添うため電話対応を行っている。入居後も心配されている家族様には現状報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人や家族様と面談を行い、必要な支援を見極めケアプランの作成を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と一緒に洗濯物を干しに外に出たり、取り込んだ後は一緒にたたんでいる。食後の台拭きや掃き掃除も手伝いを頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診の結果や相談など必要に応じて家族へ電話連絡を行い状況を伝えている。携帯電話を持ち込まれている入居者には家族との連絡は自由にとって頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のなか自由な交流は難しくなっているが、電話での交流は出来ている。また家族によっては季節ごとにハガキが届いている。	面会は家族だけでなくキーパーソンが連絡した友人とは可能で、電話や手紙の取り次ぎ、2か月毎の訪問美容、近隣への買い物、ドライブ、墓参りなど、希望する場所への外出等ができるよう支援している。自宅への外泊も可能であるが、帰って来たら3日間は自室で過ごしてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの食事席の席順やソファへの誘導時には状態をみながら座る場所を考えて対応している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があればその都度対応していく。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時間については午前・午後に分け本人の希望に応じている。髪のカットやカラーリングも本人や家族の要望に沿っている。	毎日を楽しく安心して過ごせることを目標に、入居前の情報や家族からの情報等を基に利用者の思いや望む暮らしについて、把握するように努めている。話好きな方、作話が得意な方など、利用者の状況に合わせて傾聴に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昼食後の昼寝は居室で対応している。時間については30分程を目安に声掛けを行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤職員が出勤後毎朝バイタルチェックを行いよく眠れたか、排泄について尋ねている。発熱時にはこまめに行なっている。また、歩行状態についても観察している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に新しい課題が発生すると家族と連絡を取り本人の意向と家族の意向とを聞き取り現状に則した形へと変化させている。担当者はタブレットを使用し職員に周知を行っている。	担当職員がケアマネジャーと一緒に、3～4か月毎に短期目標に沿ってモニタリングを行い、利用者の心身の状態に合わせた介護計画を6か月毎に作成している。家族には利用者毎に生活状況や気づいたことを担当職員が記載して、2か月毎に郵送している。毎月の部署会議でも計画について検討する場を設け、状態変化に応じて計画の見直しや修正を行って改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ったケアを実践しているなかで状態の変化などあれば申し送りや計画作成担当者と介護職員で話し合い状態に応じたケアに変えていっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に全入居者が一同に同じレクリエーションを行うのではなく一人ひとりに対応している。その時の入居者の状況に応じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家に帰りたい、墓参りに行きたい、以前の職場に行ってみたいなどの要望を聞き出しそれ为目标に歩く練習を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を決定し月に2度の往診を行っている。体調不良時にはいつでも受診し結果については身元引受人へ報告を行っている。	利用者の殆どは協力医療機関をかかりつけ医としているが、利用前からのかかりつけ医への継続受診や専門診療科受診の場合は、職員が付き添って支援している。協力医療機関の医師は月2回の往診を行い、訪問歯科や薬剤師等との連携も図られている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタルチェックを行い、急変時には併設施設の看護員との連携を取り、発熱時の抗原検査・採血・浣腸などの処置の依頼を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ禍のなか面会が出来ないため連携室との電話連絡を行い入居者の現状について連絡している。またパンフレットの持ち込みも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結時に「急変時や終末期における医療等に関する意思確認書」に署名・押印を頂き更新時や看取り介護開始・看取り継続中も都度取り交わすことを身元引受人に説明を行っている。	現在見取りはいないが昨年も事例があり、利用開始時に「看取りに関する指針」と「医療連携体制同意書」を説明し、同意を得ている。意思確認は介護計画の変更時や看取り開始時に再確認し、急変時の対応については年2回研修を実施し、看取り終了後は振り返りを行っている。マニュアルや介護方法等はいつでもタブレットで閲覧可能となっており、職員のスキルアップや不安の軽減に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設施設看護員による「急変時の対応」を年に2度学習会の中で学習している。様々な状況による対応をタブレットに入力しいつでも見れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	学習会の中で火災・水害について、夜間・日中対応で学習し避難訓練を行っている。水害については当施設が避難場所となっている。防災対策委員会による備蓄品や各種設備の点検も定期的に行っている。	日中及び夜間想定での防災訓練を消防署立ち合いで年2回実施していたが、コロナ禍で自主訓練となっている。近日中に地震に対する訓練を実施予定である。自動通報装置・連絡網・消火訓練や避難経路の確認等も行っているが、地域の協力は得られていない。備蓄は法人で食料を約3日分準備し、防災用品も用意して防災対策に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレのドア・居室のドアは開けっぱなしにしないようにしている。脱衣所のトイレは入浴中はなるべく使用しないよう心がけている。当施設の理念である尊厳について常に考え対応している。	管理者が中心となり、権利擁護や接遇に関する研修会を実施し、接遇目標を掲げて声かけには十分配慮している。入浴や排泄介助時はプライバシー確保に配慮した対応に心がけ、職員が自ら気づいて修正する場面がみられるなど、意識の向上に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お菓子を買いたい入居者と1Fのコンビニに買い物に出たり、散歩に近くの川に出掛けたり本人の希望に寄り添っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	車での移動が苦手な入居者と車椅子を押して近くの店に買い物に出たり甘いものを食べに出掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	食べこぼしで汚れた衣類は交換している。気温に応じた衣類で調整している。髪の毛の長い入居者はきれいにセットアップしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとり彩りよくトレイに乗せて提供している。食事形態をトレイの隅に記載し事故防止に努めている。	食事は全てホームで調理し、食材は業者に発注し、食事形態は利用者の心身の状態に合わせて提供している。利用者は下ごしらえ・菜園の草取りや収穫など、できることを一緒に手伝って、行事食や外食等も取り入れながら食べる楽しみへの支援に取り組んでいる。		

12

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量に関しては体重や食事形態を加味し最低水分量を計算し水分チェック表に貼付し1回あたり150CCづつ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後すぐに口腔ケアを行っている。毎回夕食後義歯は預かり一晩義歯洗浄剤で浄化し翌朝食事前に装着している。舌洗浄も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を準備し記録の付け方を工夫している。尿意・便意のない入居者には時間を決めて声掛けを行っている。	夜間のみポータブルトイレやおむつを使用する利用者がいるが、日中は可能な限りトイレでの排泄を支援している。排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、トイレの電灯は24時間点灯して安全に配慮している。便秘の対策には水分摂取・運動・牛乳やヨーグルトの摂取等を促し、改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬にだけ頼るのではなく、適度な運動と水分摂取を心がけている。朝食には必ず手づくりヨーグルトを提供している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	午前・午後の好みの時間に入浴していただいている。入浴剤を各色取り揃えている。	入浴は週2回、2～3人ずつ時間は決めずに個浴で実施している。利用者の状況に合わせてシャワー浴も随時行い、ゆず湯等で季節を感じられるように支援している。入浴後は保湿剤の塗布や水分補給にも配慮し、柔軟に対応できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日勤帯の活動を増やし夜間の良眠につなげるため散歩やレクリエーションで身体を動かすよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の薬剤情報提供書はコピーしたものをファイルし事務所のすぐに取りれる場所に置き何かあったらすぐに確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅中は草取りをされていた入居者と敷地内の畑に草取りを行ったり、状況をみながら少し外の空気を吸いに出るだけで笑顔になり気分転換になっている。過ごしやすい季節には外で昼食やお茶会も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば可能な限り対応している。外食や温泉なども本人の希望があれば時間をみて出かけることは可能である。2F駐車場への散歩は日常的になっており、一日に何度も出かける入居者もいる。	天候や利用者の体調・希望に合わせて、外泊・外出・少人数でのドライブ・花見・駐車場でお茶会など、外出や楽しみの機会を設けている。菜園や建物内のコンビニエンスストア等に行くこともあり、日常的にホーム周辺の散歩や外気浴、買い物等を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設内で現金を所持することは禁止している。代わりに施設内事務所に個別に預り金を保管していて、本人の希望に応じて食事や買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	状況に応じて家族から定期的に電話連絡してもらったり、遠方の家族様に曜日指定で電話連絡で声を聞かせて安心して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	荷物の少ない入居者に居室内でくつろいで頂くように施設内のソファを設置している。エアコンの風向きやベッドの位置も本人の動線を考え対応している。	フロアや廊下の壁飾りは季節に合わせて、職員が2か月毎に担当者を交替しながら利用者と一緒に毎月作成して掲示している。明るいフロアにはテレビやイス、ソファが居心地よく配置され、居室入口には利用者と担当職員の名前が表示されている。空気清浄機や加湿器も設置されて定期的に換気するなど、気持ちよく過ごせる環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを並べて置いている所や、一人がけソファを少し離れた所に設置したり、椅子をローカのところどころに置きすぐに座れる場所を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に愛着のあるものや持参出来るものの搬入の声掛けを行っている。家具の設置には入居者と一緒に生活しやすい環境作りに取り組んでいる。	居室には木目調の電動ベッド・床頭台・クローゼット・エアコンが備えられており、家庭同様に落ち着いて憩える暮らしとなるように、ダンス・テレビ・冷蔵庫・ラジオ・羽毛布団等の馴染みの物を自由に持ち込んでいる。居室入口には名前と飾りがあり、常夜灯のスイッチがある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者の出来ることを職員がきちんと理解し声掛けをおこなっている。安全を第一に考え、過剰介護にならないよう心がけている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
		○	4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない